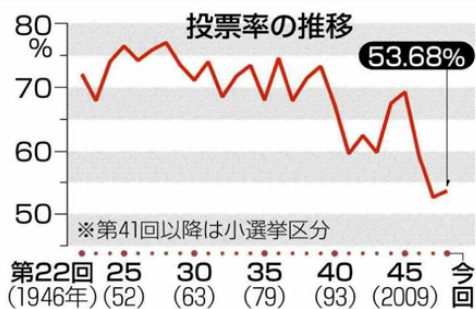




# 道新でワークシート

年 組 名前



総務省は23日、衆院選の投票率が小選挙区、比例代表ともに53・68%で確定したと発表した。戦後最低だった前回2014年衆院選

## 全国投票率確定53・68%

戦後2番目の低さ

(小選挙区52・66%、比例代表52・65%)を小選挙区で1・02%上回ったものの、戦後2番目に低い水準となった。

期日前投票者数は前回から約63%増の約2138万人と過去最多だったが、22日に投票した有権者が落ち込んだ。野党の分裂で自民・公明両党との政権選択選挙に持ち込むことができなかったこと、有権者の関心が高まらなかったほか、超大型の台風21号による悪天候が影響したとみられる。

小選挙区の都道府県別の

投票率で最高は山形県の64・07%。次いで新潟県62・56%、山梨県60・71%。最低は徳島県の46・47%で、大阪府48・39%、兵庫県48・62%の順だった。北海道は60・30%だった。

男女別では、男性が54・08%（前回は42%増）、女性が53・31%（同1・59%増）だった。

当日有権者数は1億609万1229人で、うち在外投票の有権者数は10万9000人。在外投票の投票率は小選挙区21・16%、比例代表21・44%となった。

2017年10月23日夕刊総合面

①投票率の推移のグラフからどのようなことが分かるか、書きなさい。また、今回の選挙で投票率が低かった理由として考えられることを記事から二つ書きなさい。

②投票率が低いことがなぜ問題とされるのか、考えて書きなさい。